

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	伝統的建造物群保存地区指定	式	目標	1.00	1.00	1.00
	伝統的建造物群保存地区指定に向けての検討等		実績	1.00	0.00	0.00
	景観計画及び景観条例策定	式	目標	1.00	0.00	0.00
	景観計画及び景観条例の策定及び施行		実績	1.00	0.00	0.00
成果 指標	伝統的建造物群保存地区指定	式	目標	1.00	1.00	1.00
	伝統的建造物群保存地区指定に向けての検討等		実績	1.00	0.00	0.00
	景観計画及び景観条例策定	式	目標	1.00	0.00	0.00
	景観計画及び景観条例の策定及び施行		実績	1.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	良好な景観づくりは、市民・事業者・行政の協働により推進する必要がある。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	市民自ら主体となり景観形成を考え推進するために、行政が支援・誘導するものである。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	景観形成についての周知や、市民・事業者等の景観に関する意識の啓蒙には時間がかかる。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	景観まちづくりについては、費用はかかるものの効果という点については、不確定な要素があるため、費用対効果的な観点からは、何とも言えない。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	市域全体を対象としているため、偏りは見られない。
有効性	成果向上の余地	C 成果の向上は見られない	今後条例化し計画を運用していくので、成果はこれから見られるものと思われる。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	景観計画・景観条例については策定及び施行されているため順調であったが、景観まちづくりについては、これからの事業であり、進捗は読めない部分が多い。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
景観計画については、策定後運用してからの意識向上が重要である。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
より一層の啓蒙・啓発に努めていく。 伝統的建造物群保存地区指定に向けては、地域住民と協力しながら検討していく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 平成30・31年度は生涯学習課担当による伝統的建造物群保存調査を予定しているが、関係課との連携を図り、指定に向けた支援、街づくりメニューの実施を図っていく。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 関係各課との調整により進める。